論　　文

可見元代石刻拓影目録稿（自癸未年至至元20年）

可见元代石刻拓影目录稿（从癸未年到至元 20 年）

森田　憲司*
Kenji Morita

この目録について

この目録は、現時点で日本国内において、図録類やWEB上の画像などによって拓影を見ることのできる元朝石刻についての目録である。近年、石刻を資料として用いる研究者の間で、過去にすでに作成された録文を利用するのではなく、拓本や写真を通じて、自ら石刻を「読む」ことを研究のベースとする、いわば「原石主義」とでも呼ぶことのできる方向が、１つの流れとして成立しつつある。その背景には、中国での多数の石刻拓影図録の刊行や、資料所蔵機関によるWEB上での拓影の公開があるのだが、その一方で、資料の利用にあたっての不可欠な作業である、どの石刻の拓影が、何に掲載され、どのような形で見ることができるかという、基本情報の整理がおこなわれていない。それを試みようというのが、この目録作成の目的である。ただし、本目録においても、資料収集の範囲に限界があることについては、あとで書く。

さて、ここに試行的に掲載するのは、至元20年までの目録である。筆者の見通しとしては、可見の元朝石刻拓影は元朝全体で千数百あると考えている。とすれば、今回の目録でとりあげた石刻の数は約150であるから、全体の10分の１に過ぎない。にもかかわらず、この時点で部分的にでも公開することとしたのは、次のような理由による。

まず想起されるのは、元朝石刻のうちでもこの時期のものについては、年代の比定など、史料としての取り扱いにあたって厄介な問題を持っていることであるが、これについては後述する。むしろ、私にとっての一番の理由は、石刻資料を目録化するに当たって、その目録記述の基本的な原則が確立していないという点にある。石刻の命名、年代の比定など、石刻目録作成のための基本的な点について、共通した原則が公開されている例は、筆者の知るかぎりにおいては、少なくとも我が国にはないと思う。同じく中国学の文献資料である典籍については、つとに倉田淳之助の「東方文化研究所漢籍分類目録解説」（東方学報京都第14冊第１分冊　1943）をはじめとする、京都大学人文科学研究所の方式があり、多くの資料所蔵機関で標準として採用されているのとは、様相を異にしている。

わかりやすい例として、全真教第二代教祖馬従義（鈺）の道行碑（墓碑）をあげてみよう。碑

2008年９月４日受理　*文学部史学科教授

の本文冒頭にあるタイトル（首題）には、「全真第二代丹陽抱一無為真人馬宗師道行碑」と書かれ、篆額には「全真第二代丹陽抱一無為真人馬宗師道行碑銘」と書かれているこの石刻を、本目録で拓影収集の対象とした各文献を見ると、「馬従義道行碑」（北図、西北、以下本目録の書名略号による）、「馬鈺道行碑」（碑林）、「馬真人道行碑」（陝西、重陽）とさまざまに命名している。新たにタイトルを作成命名するのか、原石にある名前をそのまま取るのかについては、一長一短がある。前者はたしかに厳密ではあるが、その一方でしばしば長文であって、一見しただけはその石刻の内容を把握しにくく、実務的ではない。次に紹介する「碑帖菁華」においては、目録での表示は簡潔な名称を命名し（拓片題名）、データとして原石にある表記を注記（根拠題名）しているが、たしかにこの方法は合理的である。ただし、最初の段階で目録に表示されるのが、命名された名前であることに変わりはない（検索では、「根拠題名」中の語からも当該の石刻が表示される）。筆者の目録においても、より簡明なことの多い「額」の表記も併記するなどの方法を今後検討したいと考えている。また、石刻の名称の問題に関連して、今回の目録では対象として取りあげていないが、石刻の種別とその呼称については、石刻学の最も基本的な項目であるにもかかわらず、清朝石刻学以来、論者ごとにすべて異なっていると言っていい。いずれにせよ、目録作成者によって石刻の名前が変わることは望ましいことではない。

さらに、石刻の年代比定についても、統一された方式があるとは言えない。石刻の史料としての特性は、刻されたときに内容が固定するという、言わば「同時間性」にあるので、他の史料以上にその年代の確定には配慮を要する。この碑の場合は、「至元癸未歳重午日」と、立石の日付が書かれている。これは、至元20年５月５日にあたるが、日付の表記法は、石刻によってさまざまであり、それをどのように目録上に記載し、また統一した日付の表示とどう共存させるかの形式にも、定まったものがあるわけではない。この碑のように明示されている場合はいいが、何をもってその石刻の年代とするのかについては検討すべき場合も少なくない。さらに注意しないといけないのは、記述されている内容と、その石刻の成立が同時代とは限らない場合があることであり、重刻でなくても、この両者の間隔がかなり長い場合もままある。筆者の当面の見解については、凡例を見ていただきたい。

こうした事情から、私なりに、目録記述の原則を作ろうとしたのが、この目録の凡例であり、それに基づいて作成したのが、この目録稿である。個別の項目についての筆者の意見は「凡例」に述べているので、こうした資料分野に関心をお持ちの方々から、それについてのご意見をお寄せいただければありがたい。これが、作成途中にもかかわらずこの目録稿を公開する最大の理由である。

ちなみに、個々の拓影について、必要な情報を根拠を掲げて載せているものとして、中国国家図書館のサイトにある拓影画像データベース「碑帖菁華」の各拓影に付されたデータがある。中国の内外を問わず、現時点で公開されているものでは、もっとも詳細なものであろう。参考に、上記の馬鈺の道行碑のデータ部分を転載しておく。

今回の目録に登載している拓影のうち、90件強、つまり全体の６割ほどは、中国国家図書館の拓影画像データベースに含まれており、それぞれにデータを見ることができる。しかし、逆に言えば、あと60件ほどは各種の図録類に散見するわけであり、その拓影とデータを集成することは、

拓片題名	馬從義道行碑　（ma cong yi dao xing bei）	
客观題名	首題："全真第二代丹陽抱一無爲真人馬宗師道行碑"	
其他題名		
责任者	（元）王利用撰；（元）孫德彧正書，（元）李頎篆額；（元）張德寧刻	
年 代	元至元20年（1283）5月5日立	
地 点	陝西省周至縣	
拓片原物状况		
附 刻		
拓片版本		
拓片特征	拓片描述	顧千里、黐鄰藏拓此本額失拓
	书体与行款	
	装裱与获得方式附注	丁惠康捐贈
数目与尺寸	1張　287×147cm	
題跋印记	鈐"黐氏鄰藏金石記"印	
文 种	汉文	
拓片内含书目索引		
关联关系		
拓片录文		
馆藏信息	顧專1023	

意味のないことではないと考える。また、いかなる文献リストも完全とはいえない。現時点で最も信頼できるであろう国家図書館や人文科学研究所の画像データベースにおいても、個々の石刻への命名や年代比定について検討していけば、やはり例外ではない。とくに注記はしていないが、この目録で筆者が修正を加えたものもある。

拓影資料の集成と、それの統一された目録記述の意義を述べながら矛盾することであるが、この目録の作成にあたって、作業上の事情から収録対象とできなかった文献がある。まず、各種の雑誌を資料収集の対象としていない。とくに新出石刻については、考古文物関係の雑誌での紹介が主たる来源となるだけに、この目録が不完全なものとなったことは否めない。さらに、現在中国で次々と出版されている「新地志」には、「文物」の項目が必ず設けられており、まま拓影が掲載されている。しかしながら、「新地志」についてはこれまでまとまった紹介がおこなわれて

おらず、国内での所蔵状況についても、全体像が掌握できていないため、対象としなかった。それ以外にも、地方レベルの石刻書については、調査漏れもあるかと思う。ご教示を期待している。なお、拓影以外に、本文読み取りが可能なレベルの写真が掲載されている場合はどう扱うかも課題として残した。今回は、「労山」、「北京精粋」については採録している。

さて、今回の目録は、編者が考えている目録作成の原則を実際に提示し、皆さんからのご意見を拝聴したいというのが趣旨であるので、とりあえず対象を至元20年までとし、現在見ることが可能な元朝の拓影千数百点の1割強にあたるこの時期についての部分を、試行目録として提示することとしたわけであるが、最後に、この目録稿を掲載年代の下限を至元20年までのものとした理由について、触れておきたい。

下限については、元朝による中国統一、つまり、至元13年、あるいは16年にするのが、常識的なやり方であろう。一方、元朝史に関心をもたれる方ならご存知のように、元朝では、世祖クビライと順帝トゴンテムルの在位の時代に、それぞれ「至元」という年号が用いられている。後者は6年間なので、至元元年から6年が2回あることとなる。さらに、至元12年から17年と後至元元年から6年の干支が、それぞれ乙亥から庚辰である。石刻では成立の年次が「年号＋干支」の形で表記されることが少なくない。これらの年が表示されている石刻については、内容から前後いずれの至元かを判断する必要がある。多くの場合は、内容から確認できるが、判断に迷う場合も、まま存在する。さらに、言うまでもなく、世祖クビライによる中統建元以前は、干支もしくは、十二支表記が用いられており、その年代比定には問題を多く含むことについては、よく知られている。至元20年を下限とすれば、こうした時期が対象となることにより、目録としての実用性も有するのではないかと考えた。

もう1つ、実務的な問題としては、至元も20年代になると、拓影のある石刻が増加し、手もとの仮目録で数えると、130に近くなる。つまり、今回の掲載数とほぼ同じ数の拓影が残りの10年間に存在するわけで、紙数の限界も考えた。

目録凡例

名称

次の順序で採用する。 首題、額、掲載文献の命名、森田の命名

同じく原石にあるタイトルとして、首題と額があるが、首題を額よりも優先するのは、額のない石刻の方が多い上に、額そのものやその拓本が失われたり、取り違えられたりすることがままあるためである（今回の目録所載の石刻にも例がある）。

墓碑、墓誌などのように個人にかかわる石刻の場合は、諱を（ ）に入れて付記する。

名称根拠

名称の欄に記した名称の根拠となったものを表示する。掲載文献の命名によった場合はその略称を用いた（拓影出典目録参照）。「森田」は、この目録のために森田の命名したものである。

年代

日付の決定と表示の原則は、次のとおりとした。

文中にある一番新しい日付を取ることを原則とする（追刻は除く）。墓誌の類については、被葬者の没年に配列するという考え方もあるが、石刻の成立と時間差がある場合もあり、その方式は取らない。

命令文などを刻したもので、立石の年代が不明の場合は、文書の日付とし、複数刻されている場合は、最新のものとする。各命令文の日付を注記欄に載せる。

干支表記による表記は年に換算し、月日についても、干支表記は数字に直す。ただし、憲宗以前の干支表記のものは干支を併記する。

月、日の別称のうち、確定できるもの（孟春、仲夏、望日、既望、七夕、重陽など）は、数字に換算して表記する。問題の残るものについては、注記欄に原表記を掲載する。

例えば、上掲の「馬従義道行碑」の「至元癸未歳重午日」は、年代欄には「至元20年５月５日」と記し、いずれも確定的な表記なので、特段の注記はしていない。

年によって動くもの（二十四節気など）はそれを表示し、換算は月にとどめる。

たんなる重刻については、その内容の時期に配列し、※をつけるとともに、注記に重刻の日付を入れる。

配列は、日まで比定できるもの、月まで、年まで、の順とする。

年代根拠

上記の年代比定の根拠となったものを記す。原則として、「立石」、「建」、「記」、「祔」、「葬」など、石刻中で用いられている表現をそのまま用いた。「日付」は石刻末に日付のみあるもの、「文書」は刻された文書の日付に拠ったもの、「文中」は、文中にある表現から比定したもの、掲載文献の年代比定に拠った場合は、その略称を記した。

所在地

拓影掲載文献の表記に従い、省名（北京を含む）と２字表記で県名を掲載する。この場合、新旧の地名が混在することはやむをえないものとする。また、石刻の移動については配慮しないこととする。

所収

複数の文献に所収の場合は、所収文献の対象範囲の広い順に並べる。

使用した文献と略号の一覧はこの文末に掲載した。

その他

文字は常用漢字を用いることとする。

拓影出典目録

（使用した略称のあいうえお順、数字の種類を注記した）

于右任　西北民族大学図書館于右任旧蔵金石拓片精選　上海古籍出版社　2008　図版番号

華山　華山碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1995　図版番号

翰墨　翰墨石影　河南省文史研究館蔵搨片精選　広陵書社　冊・頁

咸陽碑石　咸陽碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1990　頁

咸陽碑刻　咸陽碑刻　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　2003　図版番号

戸県　戸県碑刻　陝西金石文献匯集（陝西金石文献匯集）　三秦出版社　2005　図版頁

山西　山西碑碣　山西人民出版社　1997　頁

輯縄　洛陽出土歴代墓誌輯縄　中国社会科学出版社　1991　頁

新出　新中国出土墓誌　図版番号

「新出陝西２」のように巻名を表示した

西北　中国西北地区歴代石刻匯編　天津古籍出版社　2000　冊・頁

西南　中国西南地区歴代石刻匯編　天津古籍出版社 1998　冊・頁

陝西　陝西碑石精華　三秦出版社　2006　図版番号

泰山　泰山石刻大全　斉魯書社　1993　冊・頁

涿州貞石　涿州貞石録　北京燕山出版社　2005　頁

重陽　重陽宮道教碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1998　図版頁

道家　道家金石略　文物出版社　頁

白話　元代白話碑集録　科学出版社　1955　図版番号

碑林　西安碑林全集　広東経済出版社　1999　冊・頁

北京精粋　北京文物精粋大系・石刻巻　北京出版社　2004　図版番号

北京文物　北京市文物研究所蔵墓誌拓片　北京燕山出版社　2003　頁

北図　北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編　中州古籍出版社　1989－91　冊・頁

ただし本目録の対象となるのは第48冊のみ

洛陽名碑　洛陽名碑集釈　朝華出版社　2003　頁

羅常培　八思巴字与元代漢語（増訂版）　中国社会科学出版社　2004　図版番号

楼観　楼観台道教碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1998　図版頁

労山　嶗山碑碣与刻石　青島出版社　1999　頁

拓影画像データベース

人文　京都大学人文科学研究所所蔵石刻拓本資料

http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センターが提供する画像データベース。きわめて鮮明な大型画像を見ることができる。このデータベースの公開が石刻研究を大きく進展させたことは、これまでにも紹介してきた。付されている番号を表示したが、各番号の頭にある「GEN」は略した。

菁華　碑帖菁華

http://res2.nlc.gov.cn:9080/ros/index.htm

中国国家図書館の拓本画像データベース。今回の目録では、煩を避けるため、北図にないものについてのみ、所載先としてあげた。今回の目録の対象範囲では、「北図」に載せられていて「菁華」にないものはない。なお、石刻名の一部で検索可能なので、とくに番号などは付していない。ただし、画像の大小精粗にはばらつきがあり、内容判読が可能なだけの解像度がないものもままある。なお、年代比定などを見ると、「北図」そのままでなく修正が加えられていることがわかる。

名称	名称根拠	年代	年代根拠	省	県	所載	注記
癸未年太祖聖旨	森田	癸未(太祖18年) 3月	文書	山東	青島	労山26(写真)	
癸未年太祖聖旨	森田	癸未(太祖18年) 9月24日	文書	山東	青島	労山27(写真)	
長春真人詩十首	森田	庚寅(太宗2年)11月	上石	山東	青島	労山29(写真)	
故大行禅師通円懿公(行懿)功徳碑	首題	癸巳(太宗5年) 9月	注記参照	北京	房山区	菁華	癸巳七月逝、年次判読不能、「九月日」の日付
皇帝聖旨亜聖公後裔権蠲免差発碑※	人文	丁酉(太宗9)11月22日	文書	山東	鄒県孟廟	人文001X	下截には「至順2年10月立石」
鳳翔長春観公拠碑	白話	戊戌(太宗10) 4月28日	文書	陝西	鳳翔	白話図1	
総真玉宝祝文	北図	丙申(太宗8) 5月	文中			北図48・001	
洞府銘	北図	丙申(太宗8)10月	文中			北図48・002	
祖堂賛	北図	太宗8年(推定)	北図			北図48・003	
興聖寺開山智公大禅師(覚智)行状記	首題	庚子(太宗12) 3月4日	立石	北京	昌平	北図48・004	
済源十方大紫微宮聖旨碑	白話	庚子(太宗12) 3月17日	文書	河南	済源	白話図2	
請口公禅師駐棲巖疏	北図	癸卯(ﾄﾞﾚｹﾞﾈ2) 3月	文書			北図48・005	
神仙洞聖旨碑	北図	乙巳(ﾄﾞﾚｹﾞﾈ4)正月	文書	山東	掖県	北図48・006	
賜紫宣理大師該公寿塔	本文	乙巳(ﾄﾞﾚｹﾞﾈ4) 5月	立石			北図48・007	
潭源州永安禅寺第一代帰雲大禅師(志宜)塔銘	首題	丁未(定宗2)清明	日付	北京	門頭溝区	北図48・011	
皇太子令旨重修草堂寺碑	額	丁未(定宗2)10月28日	文書	陝西	戸県草堂寺	北図48・013、西北07・122、戸県45	癸卯、乙巳、丁未年
湯陰県伏道村扁鵲墓祠堂記	首題	戊申(定宗3) 6月15日	立石	河南	湯陰	翰墨6・25	

通真子墓碑銘	首題	戊申（定宗３）９月	日付	河南	済源	翰墨6・26	
故京兆劉処中（章）墓碣銘	首題	己酉（定宗４）４月１日	立石	陝西	西安	北図48・014、西北07・123	
十方重陽万寿宮記	首題	己酉（ﾊｲﾐｯｼｭ１）11月９日	建	陝西	戸県	北図48・009、西北07・121、重陽4、陝西204	
重修谷山寺記	額	庚戌（ﾊｲﾐｯｼｭ２）立春後３日	記	山東	泰山	泰山3・415	上章閹茂立春後三日
終南山重陽万寿宮洞真真人于先生碑	首題	庚戌（ﾊｲﾐｯｼｭ２）10月３日	没	陝西	戸県	北図48・015、重陽8	「重陽」は額なし
繹仙伝存真訾仙翁実録之碑	首題	辛亥（憲宗元）２月15日	立石	河南	禹県	翰墨6・27	真元日
大蒙古国累朝崇道恩命之碑	額	辛亥（憲宗元）７月９日	立石	陝西	戸県	北図48・016、西北07・126、重陽5、道家444	
清和真常二大宗師累賜仙翰	額	辛亥（憲宗元）10月15日	立石	陝西	戸県	北図48・017、重陽6、西北07・125	北図48・016の陰、「重陽」は額なし、「西北」は額を取違
先師亜聖鄒国公続世系図記	首題	甲寅（憲宗４）３月	文書	山東	鄒縣孟廟	人文002X	
重陽成道宮記	首題	甲寅（憲宗４）３月	記	陝西	戸県	北図48・018、重陽7、西北07・127、陝西205、碑林194・0744	「西北」は額を取り違え。「重陽」は碑陰額なし
重修兗國公廟記	人文	乙卯（憲宗５）３月１日	記	山東	曲阜顔廟	人文003X	
大蒙古国燕京大慶寿寺西堂海雲大禅師碑	首題	乙卯（憲宗５）９月15日	菁華	北京	西城	菁華	画像が小さく読み取れないため、「菁華」の比定に従う
海雲葬誌	森田	乙卯（憲宗５）９月15日	葬	北京	西城	北京文物71、北京精粋242	
創建開平府祭告済澆記	首題	丙辰（憲宗６）７月	文中	河南	済源	北図48・019	
唐太宗賜真人頌	首題	丙辰（憲宗６）９月９日	立石	陝西	耀州	陝西206	丙辰重九日、憲宗６年とする根拠不明
孫真人福寿論	額	丙辰（憲宗６）９月15日	立石	陝西	耀州	陝西207	丙辰秋九月望日、憲宗６年とする根拠不明
終南山重陽万寿宮無欲観妙真人李先生（守寧）碑并序	首題	丙辰（憲宗６）12月10日	立石	陝西	戸県	北図48・021、西北07・128、重陽9	

楊奐等挽悼李無欲詩	首題					北図48・022、西北07・129、重陽10	上の碑陰
莱州掖県王賈村興仙観記	首題	丁巳（憲宗７）９月７日	撰	山東	掖県	北図48・023	重陽前二日
大朝易州重修龍興観之碑	首題	丁巳（憲宗７）10月15日	立石	河北	易県	北図48・024	
元好問摸魚子	森田	戊午（憲宗８）６月１日	立石	河北	涿州	涿州貞石22	戊午六月己卯朔、憲宗８年への比定は森田
大朝第一代勍公大禅師塔銘	首題	戊午（憲宗８）８月15日	建	河南	林県	翰墨6・28	
前節度使揚君詩記	首題	戊午（憲宗８）10月15日	北図	河北	曲陽	北図48・025	戊午下元、憲宗８年の根拠不明
丹陽真人十勧	額	戊午（憲宗８）	立石	陝西	戸県	戸県46	
処士王先生（明道）墓誌銘	額	中統元年４月３日	欠落	山東	曲阜	人文004A	碑陰は「大徳３年４月辛酉立石」
李妙清墳前記	北図	中統元年９月１日	欠	山東	青州	北図48・026	横題は「墳前之記」のみ残存
延寿宮図	額	中統２年正月１日	日付	陝西	涇陽	咸陽碑刻71	
竜陽観玉真清妙真人（斡勒守堅）本行記	首題	中統２年清明	立石	陝西	西安	北図48・027西北07・130、碑林029・2946、道家541	
太清宮聖旨碑	翰墨	中統２年４月27日	文書	河南	鹿邑	翰墨6・30	
清虚子劉尊師（志淵）墓誌銘	首題	中統２年８月１日	立石	河南	渉県	翰墨6・29	
四十九世孔君（琇）之墓	額	中統２年８月15日	立石	山東	曲阜孔林	人文005X	人文は「中秋月」とする
四十八世恩賜進義孔公（端修）之墓	額	中統２年８月15日	立石	山東	曲阜孔林	人文006X	中秋日
創建了然庵記	首題	中統３年10月15日	立石	陝西	戸県	戸県47	
終南山重陽万寿宮碧虚楊真人（楊明真）碑	額	中統３年11月18日	立石	陝西	戸県	北図48・029、西北07・132、陝西208、碑林194・0747、重陽11	「北図」は首題剥落
燕京薊州盤山中盤法興禅寺故栄公提点大師（浄栄）塔銘并序	首題	中統４年３月８日	書	天津	薊県	北図48・030	

大元重修古楼観宗聖宮記※	首題	中統４年３月12日	建	陝西	周至	碑林194・0751、陝西209、楼観13(陽)	元貞丙申(2/1296)重九重刻
同塵真人門下宮観綱首名氏(碑陰)	額					楼観15	上の碑陰
莱州掖県武官村霊虚観改宮?冊仙号記	首題	中統４年４月中旬	立石	山東	掖県	北図48・031	北図：霊虚宮記
天門銘	首題	中統５年正月15日	勒石	山東	泰山	泰山3・423	
太一二代度師贈嗣教重明真人蕭公(道熙)墓碑銘	額	中統５年２月12日	立石	河南	済源	道家842	
北羅寿聖□院宣教大師(法朗)塔銘	首題	中統５年３月３日	北図	河北	唐県	北図48・032、033題名、034,035仏頂尊勝陀羅尼真言	□は禅？
故奉訓大夫襲封衍聖公世襲曲阜県令墓銘(孔之全)	首題	中統５年３月25日	立石	山東	曲阜孔林	人文007X	
特賜耀州五台山静明宮并加真人号記	額	中統５年7月７日	立石	陝西	耀州	陝西210	中統２年、３年、中統甲子七夕日昌童令旨
玄門掌教清和妙道広化真人尹宗師(志平)碑銘并序	首題	至元元年10月23日	建	陝西	戸県	北図48・037、西北07・133、陝西211、碑林194・0755、重陽12	額欠
東平府路宣慰張公登泰山記	首題	至元２年２月15日	立石	山東	泰安	人文009X、泰山	
三師祠堂記	首題	至元２年４月29日	立石	山東	掖県	北図48・039	
終南山古楼観宗聖宮之図	横題	至元２年10月２日	楼観	陝西	周至	楼観17	
北嶽祠下創塑鵲山聖像記	首題	至元２年立冬	文中	河北	曲陽	北図48・040	
菊庵長老霊塔	本文	乙丑年(至元２？)	人文	河南	登封	人文010A：模様のみ、B：文字	歳次乙丑庚辰月甲子日
大朝故京兆総管府奏差堤領経歴段君(継栄)墓誌銘并序	首題	至元３年正月12日	立石	陝西	西安	新出陝西2・338、碑林095・4723	蓋あり
淮源廟碑	菁華	至元４年３月重立	菁華	河南	桐柏	菁華	原石東漢延熹６年元月８日刻、佚。碑陰碑側元人題名
覚聚題記石扉	人文	至元４年３月	立	河南	登封少林寺	人文011X	

莱州朱橋重建太微観記	首題	至元４年４月１日	立石	山東	掖県	北図48・041	
献州達魯花赤帖公(帖哥也里可温)去思之碑	首題	至元４年８月16日	立石	河北	献県	北図48・042	
顕考広備屯百戸楊海婆婆史氏墓記	本文	至元４年10月16日	立石			北図48・043	
大朝中都大崇国寺宣授諸路釈教都総統兼立三学士経口戒清慧寂照志公大師(定志)塔銘	首題	至元５年２月16日	建	北京	石景山区	北図48・044	名称は「北図」の読みに拠る
少林乳峰仁公禅師(徳仁)塔誌銘	首題	至元５年４月13日	立	河南	登封少林寺	人文012X	
大朝曲陽県重修真君観碑	首題	至元５年６月15日	立石	河北	曲陽	北図48・046	
陳祐単父琴堂詩	森田	至元６年５月13日	日付	山東	単県	北図48・047	
通玄大師段氏墓石	森田	至元７年正月15日	不明	陝西	華山	華山35、菁華	
加封披雲真人(宋徳方)制詞碑	北図	至元７年３月	文書	山東	掖県	北図48・049	
終南山楼観宗聖宮同塵真人李尊師(志柔)道行碑	首題	至元７年７月15日	立石	陝西	周至	楼観18	
賛皇復県記	首題	至元８年春分	記	河北	賛皇	北図48・050	
陳祐詩刻并跋	北図	至元８年３月上旬跋	跋	山東	陵県	北図48・051	詩は7年11月２日
元故鼎公和尚(任崇鼎)之塔銘	横題	至元８年４月１日	銘	陝西	西安	新出陝西2・339、碑林095・4738	
通真観碑	首題	至元９年５月15日	立石	北京	房山区	北図48・052	陰失拓
玄門嗣法掌教宗師誠明真人(張志敬)道行碑銘并序	首題	至元９年９月９日	立石	陝西	戸県	北図48・053、西北07・134、陝西236、碑林194・0758、重陽13、于右任160	「重陽」は額なし
大元華厳寺重修大唐華厳新旧両雨経疏主翻経大教授充上都僧録清涼国師(澄観)妙覚塔記	首題	至元９年９月	建	陝西	西安	北図48・054、西北07・135	
石門坊張志賢亜山修行之記	首題	至元９年12月８日	立石	山東	臨淄	北図48・055	陰失拓

義士褚君墓碑	額	至元10年２月10日	立石			人文013X	首題は剥落
西京大華厳寺仏日円照明公和尚(慧明)碑銘并序	首題	至元10年３月６日	立石	山西	大同	人文015X	
周妻耶律氏墓誌	碑林	至元10年７月17日	葬	陝西		碑林095・4744	出土地不明
清天歌刻石	北図	至元10年８月２日	立石	山東	掖県	北図48・056	陰陽合裱、２日は「北図」に拠る
筠溪道院記	首題	至元11年２月15日	立石	陝西	周至	北図48・057、碑林194・0762、西北07・136	
磐石上清宮	横題	至元11年４月26日	書	山東	平度	北図48・058	
景山楼記	首題	至元11年６月15日	記	山東	長清	北図48・059	
解州聞喜県重修廟学碑銘	首題	至元11年７月16日	立石	山西	聞喜	山西257	
獲鹿県北平同新建十方興国道院悟和尚(円悟)道行碑	首題	至元11年８月	建	河北	獲鹿	北図48・060	
重建十方棲巌禅寺之碑	首題	至元11年12月８日	立石	山西	永済	北図48・062	
龍門神禹廟聖旨碑	羅常培	至元12年２月	文書	山西	臨汾	北図48・063、羅常培35	合璧(上截ﾊﾟｽﾊﾟ、下截漢字)
大元故京兆路鎮撫軍民都弾圧曹公(世昌)墓誌銘并序	首題	至元12年３月26日	葬	陝西	西安	陝西213	
代祀済瀆投龍簡記	首題	至元12年３月	記	河南	済源	北図48・064、翰墨6・31	
終南山神仙重陽子王真人(王喆)全真教祖碑	首題	至元12年７月15日	立石	陝西	戸県	北図48・065、西北07・138、陝西214、碑林194・0766、重陽14	「碑林」のみ額を掲載、西北は「王哲」に誤
重建太清万寿宮碑銘并序	首題	至元12年９月15日	欠落	河南	済源	北図48・066	
終南山重陽成道宮全陽真人周尊師(全道)道行碑并序	首題	至元12年10月15日	立石	陝西	戸県	北図48・061、西北07・137、陝西215、重陽15	首題下部に欠落か、「西北」至元11年に誤
重建中興寺記	首題	至元12年10月	立石	河南	鎮平	翰墨6・32	
北嶽葛洪山清虚宮知微子劉公(志通)寓形誌	首題	至元12年	立石	河北	唐県	北図48・067	

終南山重陽祖師仙跡記	首題	至元13年８月15日	書	陝西	戸県	北図48・069、西北07・139、陝西216、重陽16	「重陽」は額なし
大元国京兆府重修宣聖廟記	首題	至元13年９月	立石	陝西	西安	北図48・070、西北07・140、碑林029・2961	首題の上の部分欠落か
天生城石壁記	北図	至元13年10月	勒石	四川	万県	北図48・071	
宣聖四十八代墓碑(孔端頤)	人文	至元13年12月１日	立石	山東	曲阜孔林	人文016X	
宣聖四十九代墓碑(孔璿)	人文	至元13年12月１日	立石	山東	曲阜孔林	人文017X	
宣聖五十代墓碑(孔擄)	人文	至元13年12月１日	立石	山東	曲阜孔林	人文018X	
府学公據及重立文廟諸碑記	森田	至元14年正月15日	立石	陝西	西安碑林	北図48・072、西北07・141、碑林030・2976	上截の公拠は至元13年12月13日安西王令旨
軹城大明院重建釋迦文佛之殿記	首題	至元14年正月	立石	河南	済源	北図48・073	図版不鮮明、名称は「北図」の読みに拠る
大元故興元路蒙古教授雷君(徳詮)墓誌銘	首題	至元14年５月20日	葬	陝西	高陵	新出陝西1・171	
陝西学校儒生頌徳之碑并序	首題	至元14年10月15日	日付	陝西	西安碑林	北図48・074、西北07・142、碑林030・2980	
有元重修玉清万寿宮碑銘并序	首題	至元15年正月	立石	陝西	千陽	北図48・075、西北07・143	
洛京緱山改建先天宮記	首題	至元15年２月22日	立石	河南	偃師	洛陽名碑70	
円明真人高公(道寛)碑銘	額	至元15年5月重午？	建？	陝西	祖庵	碑林194・0770、重陽17	首題欠落。「重陽」の復元では「提点陝西四川道教兼領重陽万寿宮事洞観普済円明真人高公道行碑并序」
大龍山石壁寺円明禅師(恵信)道行碑	首題	至元15年６月	立石	山西	交城	人文019X	
香山観音寺地界公據碑	北図	至元15年８月18日	文書	河南	宝豊	北図48・076	
創建金砂山宝巌寺記	首題	至元15年10月15日	日付	雲南	晋寧	北図48・077	
文廟釈奠記	首題	至元16年正月上澣	建	陝西		碑林030・2987	
孟州重修済瀆行宮之碑	首題	至元16年４月７日	立石	河南	孟県	翰墨6・33	

万寿宮勢都児大王令旨碑	森田	至元16年７月13日	文書	山東	掖県	北図48・078	
棲雲王真人開澇水記	首題	至元16年７月15日	立石	陝西	戸県	人文020X、重陽18	
河南路転運司知事張遇夫妻合祔墓誌	森田	至元16年７月16日	祔	河南	洛陽	輯縄757	
創建大道迎祥宮碑	首題	至元17年清明	立石	陝西	涇陽	咸陽碑刻72	
故鎮国上将軍江東道宣慰使蒙古漢軍都元帥張公(弘範)墓誌銘并序	首題	至元17年４月	立石	河北	易県	新出河北165	「新出」は「一日」とするも、「一」はキズで空白か。
全真観記	横題	至元17年９月19日	記	広西	桂林	西南5・54	至元□七年歳在庚辰菊節後十日
大元大都路易州易県来山里永安寺都綱雲溪寿公(印寿)道行碑	首題	至元17年10月上旬	立石	河北	易県	北図48・079	孟冬上旬
元輔昌墓誌	新出	至元17年	卒	陝西	西安	碑林095・4746、新出陝西2・340	至元庚辰前後未確定
弘玄真人趙公道行碑銘	額	至元17年	文中	陝西	戸県	重陽20	
万寿宮勢都児大王令旨碑	森田	至元17年	文書	山東	掖県	北図48・080、道家632	月の部分欠落
王博文等謁嶽廟記	北図	至元18年正月29日	日付	河北	曲陽	北図48・081	
大元創建清陽宮記	首題	至元18年２月16日	記	陝西	戸県	重陽21	「重陽」は３月とする
大元故奉議大夫耀州知州馮公(時泰)墓誌銘	首題	至元18年２月24日	祔	陝西	長安	新出陝西2・341	
聖山孝思禅院広公(子広)和尚碑銘	首題	至元18年８月１日	立石	河南	林県	翰墨6・34	
終南山大重陽万寿宮真元会題名記	首題	至元18年８月15日	記	陝西	戸県	碑林194・0774、重陽22	辛巳中秋日
大元封弐賢制	額	至元18年10月	日付	山西	永済	山西260	
大都昌平県東郷新城村雙泉院地産記	首題	至元19年３月15日	立石	北京	昌平	菁華、北京精粋126(四至図のみ)	碑陰地産四至図
馬児年秦王阿難答令旨碑	森田	至元19年４月22日	白話	陝西	戸県	戸県48	上截パスパ文、下截漢字。馬児年の比定は「白話」による

周公廟潤徳泉復涌記	首題	至元19年４月27日	欠落	陝西	岐山	碑林194・0780	
泰安州長清県十方霊巌禅寺第二十五代方公禅師(徳方)塔銘	首題	至元19年６月15日	建	山東	長清	北図48・082、人文021A(陽)、021B(陰)、022X(陽)	「北図」は碑陰なし、人文21Aは額なし
真定府元氏県重修廟学記	首題	至元19年７月15日	立石	河北	元氏	北図48・083	
終南山楼観宗聖宮提点成公先生(志遠)墓誌	首題	至元19年８月15日	建	陝西	周至	楼観19	
岐山県周公廟潤徳泉復出記	首題	至元19年８月19日	記	陝西	岐山	碑林194・0784	
終南山宗聖宮主石公(志堅)道行記	首題	至元19年８月	不明	陝西	周至	北図48・084、碑林194・0777、楼観20	日付部分欠落
泰安州長清県十方霊巌禅寺第二十六代福公禅師(広福)塔銘	首題	至元19年10月	重建	山東	長清	人文014X(陽)、023A(陽)、023B(陰)	
令旨聖旨碑	森田	至元19年	立石	陝西	華山西岳廟	華山36	上截己未令旨、中截至元12聖旨、下截鼠児年安西王令旨。立石の「一九年」以下欠落。
雩泉記	首題	至元19年	北図	山東	諸城	北図48・085(陽)、086(陰)	蘇軾撰の碑の重建、碑陰宋人題名
全真第二代丹陽抱一無為真人馬宗師(鈺)道行碑	首題	至元20年5月５日	立石	陝西	戸県	北図48・087、西北07・145、陝西217、碑林194・0787、重陽23・24	
重修明応王廟碑	首題	至元20年11月１日	立石	山西	洪洞	山西261	
大元崇道聖訓王言碑	重陽	至元20年11月	羅常培	陝西	戸県	重陽19、羅常培36	第１截龍児年聖旨、第２截至元14年安西王令旨、第３旨至元17年聖旨、第４截至元14年安西王令旨、至元20年11月

付記

この目録は、平成19年度の奈良大学研究助成、「中国近世石刻史料、とくに墓誌の基礎的研究」，および平成17年度～21年度科学研究費特定領域研究A「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」のうち研究課題「中国科挙制度からみた寧波士人社会の形成と展開」の分担研究者としての研究活動の成果である。さらに、過去の本学研究助成や科学研究費などによる文献の集積が基礎となっている。あわせて関係の各位に謝意を表したい。